



一般社団法人
日本看護研究学会

ニュースレター

第7号

2022年12月1日 発行

編集発行

日本看護研究学会

(事務局)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2丁目39-2-401

株式会社ガリレオ 学会業務情報化センター内

一般社団法人日本看護研究学会 事務局

TEL: 03-3982-2030 (直通)

FAX: 03-5981-9852

主な記事

理事長挨拶 / 新役員一覧 / 総会報告 / 学術集会情報
委員会紹介 / 調査報告 / お知らせ / 編集後記

理事長挨拶

一般社団法人 日本看護研究学会
理事長 浅野 みどり



6月の社員総会でご承認をいただき、歴史ある日本看護研究学会の理事長という重責のバトンを深井喜代子前理事長より受け取ることとなりました。早いもので既に4か月ほどが経ちましたが、遅ればせながら、みなさまに一言ご挨拶を申し上げます。

圧倒的な感染者数を記録したCOVID-19パンデミック第7波でしたが、新規感染者数は8月中旬に過去最多の26万人超をピークとし、その後は急減しました。第48回学術集会（学術集会長 中西純子先生）は、8月27～28日に開催され、ハイブリッド開催とはいえ3年ぶりに現地での開催が実現したことはたいへん喜ばしいことでした。会場（松山市総合コミュニティーセンター）では、久しぶりの再会を喜ぶ会員の方々の楽しそうな声をたくさん耳にすることができました。まだ感染リスクも懸念される中、感染対策にも細やかな配慮をいただき、学術集会のご準備・運営にあたってくださった中西学術集会長ならびに実行委員をはじめスタッフの方々に心より御礼を申し上げます。

徐々に行動制限もなくなり秋の連休は観光地など街には多くの人出が戻り、3年ぶりに秋祭りが復活したというニュースもよく耳にするようになりました。喜ばしい一方で、10月に入りまた感染者数が増えてきています。この冬は新型コロナウイルスと季節性インフ

ルエンザとの同時流行も懸念されています。医療現場・教育現場ともにまだ気の抜けない状況であろうかと思いますが、みなさまのご健勝を願っています。

さて、本学会は2025年に50周年を迎えます。今期の理事会では、記念すべき50周年に向け将来構想委員会を中心となり、50周年記念事業ワーキンググループを立ち上げその準備を進めています。これまで掲載された研究論文の動向や研究トピックの分析など“日本看護研究学会らしい”記念誌の発行、記念イベント開催などを視野に検討してまいりますので、会員のみなさまもよいアイデアがございましたら、ぜひご意見をお寄せください。

また、前理事会から“実践現場とアカデミアとの連携協働による実践研究の推進”を目的に発足した実践研究推進ワーキングによる取り組み『仲間と研究をつなごう会』も第7回と順調に回を重ねています。具体的アクセス方法は【会員情報管理システム】マイページでご案内していますが、オンライン開催でどなたでもご参加いただけます。仲間と一緒に研究に取り組み、日本看護研究学会からエビデンスを発信していきましょう！

新役員一覧

一般社団法人日本看護研究学会 2022-2024 役員名簿

理事長	浅野 みどり	理事	小松 万喜子	理事	法橋 尚宏
副理事長	安藤 詳子		佐伯 由香		三橋 睦子
	前田 ひとみ		作田 裕美		森 千鶴
理事	宇佐美 しおり		佐藤 正美		矢野 理香
	遠藤 みどり		塩 飽 仁		山 勢 博 彰
	岡山 久代		中西 純子		若村 智子
	勝山 貴美子		長谷川 真澄	監事	稲垣 美智子
	叶谷 由佳		布施 淳子		任 和子

総会報告

2022年度定時社員総会報告

2022年度の定時社員総会はCOVID-19感染拡大防止の観点から、評議員の皆さまには総会会場へのご来場はご遠慮いただき、オンラインシステムによる議決権行使または委任状の提出でのご参加をお願いする形での開催となりましたため、定時社員総会開催に先立ち、評議員の皆さまとの意見交換会を5月22日（日）にオンライン会議システムにて実施いたしました。意見交換会では、深井喜代子理事長*からの挨拶の後、社員総会資料に基づいて、会員数の動向、第7回評議員・役員選挙（2021年度）、第48回・第49回学術集会、各地方会の活動について報告がありました。第48回学術集会（中西純子学術集会会長）は、COVID-19の感染状況を考慮しつつも、対面での学術集会における交流も実現させたいというご意向のもと、現地参加とオンライン参加を併用するハイブリッド形式での開催にしました。続いて、2021年度事業報告・決算報告、2021年度学会賞・奨励賞、役員の選任、名誉会員（早川和生氏 前・三重県立看護大学学長）の推薦について

の審議事項についての説明が行われました。その後、理事会報告として、2022年度事業計画・予算報告が行われました。また、2022年度の奨学会研究授与について田丸朋子氏「臥床患者への採血における学生の全身姿勢と血管穿刺成功率との関係」に決定したことについて、理事会にて承認されたことが報告されました。

2022年度定時社員総会は、2022年6月4日（土）10：00～11：00に本会事務局会議室にて開催されました。すべての審議事項は、書面表決・委任を含めて集計の結果、出席者の過半数（68名以上）の同意をもって承認されました。2021年度学会賞は高橋智子氏、奨励賞は小林美雪氏・小村三千代氏、松田光信氏・河野あゆみ氏、岡西幸恵氏、井上里恵氏・藤原奈佳子氏・郷良淳子氏、野中光代氏・古田加代子氏・紫邦代氏の5論文の受賞となりました。

*理事長 2022年6月4日 定時社員総会終結のときまで 深井喜代子
2022年6月4日 社員総会終結のときから 浅野みどり

学術集会情報

第48回学術集会を終えて

一般社団法人 日本看護研究学会
第48回学術集会会長 中西純子
(愛媛県立医療技術大学)

第48回学術集会は8月27日(土)～28日(日)の2日間、松山市総合コミュニティセンターを会場に、本学会初の現地とオンラインを併用するハイブリッド形式で開催いたしました。開催直前の8月にはオミクロン株による第7波が猛威を振るい、ハイブリッド開催とは言え、演者・参加者の方にも急遽、来場が困難となる方が続出し、最後まで緊張感を強いられる学会となりました。しかしながら、全参加者数933名、うち317名の方が現地に足を運んでくださり、幸い、感染者を出すこともなく、また、久しぶりに顔を合わせた交流を喜んでくださった方が多く、準備・運営上は大変なことが多々ありましたが、主催者としてはハイブリッドで開催できて良かったと思っています。改めまして、ご参加の皆様、ご協力・ご支援くださいました関係者の皆様に、こころより感謝申し上げます。

さて、第48回学術集会のテーマは「実践と研究の往還で紡ぐー看護の知」でした。研究と実践が行ったり来たりしながら看護の知を積み上げていくためのヒントを得ようと、プログラムには特別講演、研究方法に焦点を当てた教育講演3題、シンポジウム、リレートーク、日本薬理学会との共催セミナー、本学会の委員会からの演題5題を企画し、社会貢献活動としては「人類とウイルスの共存」と題する市民公開講座を開催し、それぞれ会場参加、LIVE視聴&オンデマンド

視聴のいずれかの方法で多くの方にご参加いただきました。なお、中学生を対象に看護の魅力を伝える企画「ナースング・トーク&トーク」につきましては、参加者の安全を考慮し、感染が落ち着いた時期に延期して別日程で開催いたしました。

一般演題は口演74題、示説119題、交流集会10題のご発表をいただきました。口演と交流集会は現地会場でのご発表と質疑応答に加え、オンデマンド配信も行い、示説はWEBのみでのご発表・質疑応答とさせていただきました。口演発表・交流集会では久々の顔を合わせての発表と質疑応答で、セッションを終えたあとの交流においても笑顔が溢れ、オンラインにはない良さを改めて実感することができました。また、従来の現地開催だけでは参加できなかったプログラムや一般演題も、オンデマンド配信によりすべて視聴することができ、ハイブリッドの良さを堪能しました。今後はコロナ禍に関わらず、学術集会の開催方法として幅が広がるのではないかと感じています。

最後に、今回の学術集会には、愛媛県内の看護教育機関、医療機関から学生を含め約200名近くの方が、実行委員あるいはボランティアとしてご協力くださいました。このことを誇りに思いますとともに、コロナ禍の最中、愛媛の地で、無事、学会を開催できたことに、心より御礼申し上げます。



第49回学術集会開催のご案内

一般社団法人 日本看護研究学会
第49回学術集会会長 叶 谷 由 佳
(横浜市立大学)



メインテーマ：看護の可能性の探求

開催方法：2023年8月19日（土）～20日（日）オンライン、オンデマンド

第49回学術集会は完全オンラインにて開催させていただきます。

2019年からコロナウイルス感染症拡大のため、社会全体が翻弄されてきました。しかし、このことによって様々な変革が進んできました。会議や講義はリモートやオンラインが進み、学術集会もオンラインやオンデマンド、ハイブリッドという開催方法の多様化が進み、それによるメリットも見えてきたように思います。それらの経験を活かして、新しい学術集会の形として第49回学術集会では完全オンラインでの開催としました。企画委員会もオンラインで行うこととしたた

め、全国にいる企画委員の先生に参加いただいています。また一般社団法人日本看護研究学会の特徴でもあります地方会の代表の先生にもご協力いただいています。オンラインであってもなるべく、参加者同士の交流ができるような開催方式を企画中です。詳細については学術集会ホームページをご確認ください。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

※一般社団法人日本看護研究学会第49回学術集会ホームページ

<https://site.convention.co.jp/jsnr49/>



委員会紹介

総務担当

総務担当は、理事長の補佐として、会員の入退会や役員人事に関すること、会員の皆様への情報提供の役を担っています。できるだけ早く会員のメリットが受けられるように、入会の承認は2週間ごとに行っています。このところ、学生会員やシニア研究者のご入会が続き、看護研究者の幅の広さを感じています。入会して良かったと思える学会に、会員の皆様と一緒に作り上げていきたいと思えます。看護研究の活性化に向けたアイデアや企画がありましたら、事務局までご連絡ください。

前田ひとみ（熊本大学）
矢野 理香（北海道大学）

渉外担当

渉外担当では、日本看護系学会協議会（JANA）、日本学術会議（第二部：生命科学）健康・生活科学委員会／看護学分科会、看護系学会等社会保険連合（看保連）等との円滑な連携を担います。重要な関連情報は事務局を通じて、理事・監事・評議員・会員へ送信しています。また、本会ホームページに関連の情報を掲載して確認できるようにするなど、広く周知できるような方策も検討しています。

そして、本会は2024年に第50回学術集会を迎えます。将来構想委員会において50周年記念事業について検討されますが、渉外担当としても、重みのある歴史を継承し、本会が看護学に専心する会員の皆さまとともに学術活動の発展を見据えていくように、他組織との連携も鑑み、微力ながら努めてまいりたいと思えます。

安藤 詳子（一宮研伸大学）
岡山 久代（筑波大学）

会計担当

会計担当は本学会の資産および会計の管理を行っています。活動は予算案の提案や決算確認および報告、会費請求などが主な内容となります。会費納入率は毎年高く、学会運営が安定しております。会員の皆様に感謝申し上げます。学会の資産によって委員会や学術集会等が円滑に営まれるよう適切な資産および会計管理に尽力いたします。

布施 淳子（山形大学）
遠藤みどり（山梨県立大学）

委員会紹介

和文誌編集委員会

英文誌の発行に伴い、今期から編集委員会も英文誌と和文誌とに分かれました。

和文誌編集委員会はこれまで通り、1)「日本看護研究学会雑誌」の企画、編集、発行の基本方針に関すること、2)投稿規程等の制定、改廃に関すること、3)論文、資料等の投稿受付、査読審査に関すること、4)論文掲載の決定に関すること、5)その他、刊行に関すること、を担当しています。

日本看護研究学会雑誌の発行は、学会の根幹をなす機能であり、インパクトのある研究結果を迅速に公表できるように心がけています。査読へのご協力と論文投稿の両面から、会員の皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

委員長

佐伯 由香 (愛媛大学)

委員

法橋 尚宏 (神戸大学)

會田 信子 (信州大学)

伊丹 君和 (滋賀県立大学)

佐々木新介 (岡山県立大学)

高井ゆかり

(群馬県立県民健康科学大学)

名越 恵美 (岡山県立大学)

武用 百子 (大阪大学)

本田加奈子 (滋賀県立大学)

松田 光信 (大阪公立大学)

水野恵理子 (順天堂大学)

光木 幸子 (同志社女子大学)

英文誌編集委員会

日本看護研究学会は、国際英文ジャーナルとして『*Journal of International Nursing Research* (JINR)』を2022年2月に創刊 (Volume 1, Number 1を発行) しました。これを踏まえ、2022年5月から、従来の編集委員会を和文誌編集委員会と英文誌編集委員会に分けました。英文誌編集委員会は、1) JINRの企画、編集、発行の基本方針に関すること、2)投稿規程等の制定、改廃に関すること、3)論文、資料等の投稿受付、査読審査に関すること、4)論文掲載の決定に関すること、5)その他、刊行に関することを担当しています。

看護学のグローバル化が加速する中、英語による学術研究が行える人材の必要性が高まっています。JINRは、看護学に関連する幅広い分野の研究をスコープとし、世界中の看護学研究者に門戸を開いています。アクセプトされた論文は、オープンアクセスにて迅速公開します。要件が整い次第、PubMedに掲載予定です。詳細は、JINRのウェブサイト (<https://www.jinr.jsnr.or.jp/>) を参照してください。論文受付は2021年5月23日より開始しましたが、現在、国内外から年間60本を超える論文投稿があります。今後の展開にご期待ください。JINRを会員の皆様と一緒に育てていきましょう。

委員長

法橋 尚宏 (神戸大学)

委員

荒木田美香子

(川崎市立看護大学)

Polly Siu Ling Chan

(University of Hong Kong)

深井喜代子

(東京慈恵会医科大学、JINR編集顧問)

Chia-Chin Lin

(University of Hong Kong、JINR副編集長)

Justina Yat-Wa Liu

(Hong Kong Polytechnic University)

清水 安子 (大阪大学)

辻村真由子 (滋賀医科大学)

横山 美江 (大阪公立大学)

吉永 尚紀 (宮崎大学)

(アルファベット順)

奨学会委員会

奨学会の目的は、優秀な看護学研究者の育成の為に、その研究費用の一部を授与 (奨学金) し、研究成果により看護学の発展に寄与することです。委員会は、奨学研究の募集、選考、成果発表に関与する活動をおこなっています。奨学金は1題50万円以内で、受給者には、研究成果を誌上发表することが求められます。募集は毎年9月にご案内しております。若手研究者をはじめとした多数の応募を期待しております。

委員長

小松万喜子 (中部大学)

委員

遠藤みどり (山梨県立大学)

勝山貴美子 (横浜市立大学)

作田 裕美 (大阪公立大学)

長谷川真澄 (札幌医科大学)

学会賞・奨励賞委員会

学会賞・奨励賞委員会では、過去3年間の本学会雑誌に発表された論文から、学会賞は看護学の発展に貢献できる先駆的な原著論文の筆頭著者1名、奨励賞は独自性があり将来に発展が期待される5論文の選考をしています。選考に至るまで、各委員が約35編前後の論文の評価を行い、1月の委員会で慎重に審議・選考、その後委員長が推薦書・申請書類を作成、メール会議、2月末までに理事長に推薦、年度末の理事会で審議、5月の社員総会で承認を受ける、という過程を担っています。

委員長

長谷川真澄 (札幌医科大学)

委員

遠藤みどり (山梨県立大学)

勝山貴美子 (横浜市立大学)

小松万喜子 (中部大学)

作田 裕美 (大阪公立大学)

委員会紹介

将来構想委員会

将来構想委員会は、「当法人の将来構想に必要な事項を検討すること」を目的としています。

本委員会の構成メンバーは理事長および総務担当：前田副理事長、矢野理事、渉外担当：安藤副理事長、岡山理事、会計委員長：布施理事の6名です。

現在は「将来構想事業基金（仮名）の設置」ならびに「50周年記念事業」に関する課題を中心に検討を重ねています。月1回ペースで定例会を開催し、中長期的な視点で日本看護研究学会のよりよい将来像の実現に向けて模索していますので、会員のみなさまのご意見はHP等を介してぜひお寄せ下さい。

委員長

浅野みどり（理事長）

委員

前田ひとみ（総務担当副理事長）

安藤 祥子（渉外担当副理事長）

矢野 理香（総務担当理事）

岡山 久代（渉外担当理事）

布施 淳子（会計担当理事）

研究倫理委員会

研究倫理委員会は、研究倫理に関する啓発事業に関わる事業として、人・動物あるいは資料等を対象とする研究の倫理的問題を検討し、会員が、看護研究に伴う倫理について理解を深めると同時に、研究が倫理的に遂行できるように支援することを目的としています。

また、本委員の他に理事長が選任する委員を加え、研究倫理審査も担当します。研究倫理審査の対象は、会員であり、申請者が所属する機関に研究倫理審査を行う組織が設置されていない、あるいはやむを得ない理由で倫理審査を受けることができない場合であって、なおかつ、申請者の所属している所属長の承諾を得ている場合に行います。詳細は学会ホームページをご参照ください。

さらに前期の委員が作成した利益相反の管理指針に基づき利益相反管理を行い、本学会の学術活動の客観性と中立性を保つ環境を堅持し、看護学教育、研究、進歩発展に寄与できるよう支援しています。現在は研究不正や研究者のマナーに対する検討を行っています。

委員長

森 千鶴（東京医療学院大学）

委員

山勢 博彰（山口大学）

池田 清子（神戸市看護大学）

中尾 久子（第一薬科大学）

国際活動推進委員会

国際活動推進委員会は、会員の国際的な活動と交流を支援することを目的に、会員の協力をいただきながら、1) 国際的な活動に資する情報を提供する 2) 国外への情報発信を支援する 3) 海外の学会・関連機関との連携・交流を行うことを役割としています。

会員を対象とした国際活動に関する調査を、本学会の研究倫理委員会で審査を受けたあと、2022年の6～7月に本学会の会員管理システムを活用して実施しました。アカデミックライティングに関する企画は、今後の本委員会活動にも役立てたいと思います。第48回学術集会の交流集会で、オニール博士（オーストラリア）による論文の書き方の録画講演を開催し、関心の高い方にお集まりいただきました。また、11月に専門看護師を含むANP教育に焦点をあてた海外講師によるセミナーも企画いたしました。国際活動に関心が高い会員の方にもサポートしていただきながら、国際活動をさらに推進できるように取り組んでいきます。

委員長

若村 智子（京都大学）

委員

宇佐美しおり（四天王寺大学）

石飛マリコ

（日本赤十字九州国際看護大学）

岡 美智代（群馬大学）

中平 みわ（京都光華女子大学）

中本 五鈴（東北大学）

大規模災害支援事業委員会

大規模災害支援事業は、東日本大震災を契機として、平成23年度から大規模な災害により被災された看護学生が修学継続をあきらめることのないよう支援しようという会員からの声により誕生した事業で、本委員会はこれを運営しています。平成27年度からは支援の対象を本学会会員の看護学研究者にも拡大しています。また、令和3年度には長引くコロナ禍で困窮する人にも支援を拡大し、これまでに総計295件、総額約2,305万円を支援させていただきました。本支援事業は被災した個人を直接、経済的に支援するもので他の学会にない独自の支援事業です。

支援の原資は本学会一般会計ならびに学術集会等からの繰入金と会員の皆様からのご寄附等であり、平成23年度から令和3年度までにお寄せいただきましたご寄附総額は11,712,455円になります。皆様のご厚意にこころより感謝申し上げます。

本委員会は災害が発生しないことを願いつつ、発生したときには、少しでも必要な人に支援が届けられるよう引き続き情報の周知と迅速な対処に努めてまいります。

委員長

中西 純子

（愛媛県立医療技術大学）

委員

三橋 睦子（久留米大学）

三国 久美（北海道医療大学）

委員会紹介

広報委員会

広報委員会は学会の事業及び看護に関わる教育・研究活動についての情報を周知することを目的として活動しています。具体的な活動としては次の5点です。

- 1) 本会ホームページの作成、管理及び運用
- 2) ニュースレターの発行
- 3) 会員向けメール配信による情報発信
- 4) 必要と認められる情報の収集、開示、及び管理
- 5) 広報体制の検討

会員の皆様に学会の動向や最新の情報を発信し、研究活動に役立てていただける、また教育や臨床の活動を推進していく広報をめざして活動していきたいと思います。「このような内容を知りたい」というものがありませんでしたらお知らせ下さい。また、原稿執筆の依頼がありましたら、是非ご協力いただければと思います。会員の皆様に有益な情報をお届けできるよう鋭意取り組んでまいります。

委員長

塩飽 仁 (東北大学)

委員

井上由紀子 (仙台赤門短期大学)

看保連ワーキング

本ワーキングは、看護系学会等社会保険連合(看保連)に加盟している本学会が、診療報酬や介護報酬への要望のためのエビデンス作りと要望書作成を行っています。今年度より、委員のメンバーを増やし8名体制で検討しています。本学会はアンブレラ学会とも言われ、看護学に関するテーマを幅広く扱うので、要望について焦点を絞りにくいというところがある反面、幅広い分野で対応できるというメリットもあります。そのため、他学会との連携も視野に入れながら、現場のニーズをとらえて、必要な要望に繋がるような活動をしていきたいと考えています。看保連の3つの委員会のうち、診療報酬のあり方検討会と介護報酬のあり方検討会に委員を推薦していますが、幅広く情報収集するために看護技術検討委員会にも委員を推薦していきたいと考えています。

委員長

叶谷 由佳 (横浜市立大学)

委員

安藤 詳子 (一宮研伸大学)

赤瀬 智子 (横浜市立大学)

金田 明子 (横浜市立大学)

田中明日美 (横浜市立大学)

玉井 奈緒 (横浜市立大学)

泊 祐子 (関西福祉大学大学院)

南崎 真綾 (横浜市立大学)

実践研究活動推進ワーキング

このワーキングは、看護実践の質の向上に資する研究活動を支援・推進するために2020年度に発足し検討を重ね、まずは《人をつないで研究をつなぐ》をモットーに、2021年度より本格的に活動を開始しました。こんな研究に取り組みたい、仲間を探したい、など様々なニーズを持つ人が集い「仲間と研究をつなごう会」を6回開催しました。また、通常はお邪魔することはできない研究室を訪問するセミナー「研究室をのぞいてみよう」を、同じくオンラインで2回開催し、好評を得ました。

今後は、仲間がつながり生まれた研究グループへ、さらに研究活動を支援・推進するための活動も進めてまいります。実践に役立つ研究成果に結びつくよう、どのような活動に取り組むべきか、会員の皆様の忌憚ないご意見をお待ちしています。

委員長

佐藤 正美 (東京慈恵会医科大学)

委員

浅野みどり (名古屋大学)

深井喜代子 (東京慈恵会医科大学)

前田ひとみ (熊本大学)

若村 智子 (京都大学)



調査報告

国際活動推進委員会 国際活動の現状とニーズに関する調査報告

本学会員の皆様の国際活動の現状とニーズを把握し、皆様に求められる企画を検討することを目的に、2022年6～7月に、国際活動推進委員会は、「国際活動の現状とニーズに関する調査」を実施させていただきました。お忙しい中、ご協力をいただきまして、心から感謝を申し上げます。本調査の結果をご報告させていただきます。

本調査にご協力いただいた回答者は211名でした(回収率3.9%、2022年4月1日時点の日本看護研究学会会員5,419名)。国際活動推進委員会に希望する活動に関して、「英語論文の書き方、アカデミックライティングに関する講演会や研修会の開催」を希望するが79.6%と最も多く、次いで「英文誌投稿のための経済的支援を受けること」を希望するは61.6%、「学会参加のための経済的支援を受けること」を希望するは59.2%、「海外の学会と日本看護研究学会との交流締結」を希望するは45.5%でした。

2020年から現在まで、COVID-19パンデミックが続いております。海外留学・研修や海外の学会に参加することを予定していた方の中には、諦めざるを得なかった方もおられたのではないのでしょうか。そのような状況で、国際活動推進委員会として、会員の皆様の

国際活動をどのように支援するべきであるか、支援できるかに取り組んできました。英語論文として研究結果を世界に発信することは、パンデミックの状況でも実現可能な国際活動です。そのため、2020-2022年期の国際活動推進委員会では、アカデミックライティングに関する知識の啓発(2021, 2022)に取り組んできました。本調査でも、アカデミックライティングに関する企画の希望は79.6%と高く、皆様のニーズに対応できた企画の1つであったかもしれません。一方で、本調査の回収率は3.9%であり、回答者が国際活動にもともと興味がある方に偏っていた可能性が考えられました。今後は、国際活動にあまり関心がない会員の皆様にも、興味をもって参加していただける企画や支援を計画していく必要があります。

今回の調査で、今後の国際活動推進委員会活動に協力していただける方を募集させていただきました。非常に多くの会員の皆様に賛同していただき、名乗りをあげてくださいました。心から感謝申し上げます。国際活動推進委員会の活動内容に応じて、ご連絡を差し上げることがあるかもしれません。少し先になると思いますが、その際はどうかよろしくようお願い申し上げます。

お知らせ

実践研究活動推進ワーキングより

今年度の「仲間と研究をつなごう会」は12月13日(火)、3月14日(火)いずれも18時から19時半にZoomで開催します。こんな研究に取り組みたい、仲間を探したい、など研究の情報交換や悩み相談ができます。同じ関心ごとの参加者と、仲間になり研究グループを作る

こともできます。開催日が近づきましたら、学会事務局よりメールで開催のご案内をします。なお、この会は非会員でも参加できるようにしていますので、ぜひ周囲の方へお声掛けください。

名誉会員 近田敬子先生と木場富喜先生がご逝去されました。

永年に亘り本学会にご貢献をいただきました近田敬子先生が、2022年4月4日にご逝去されました(享年83歳)。

また、四大学研究協議会から四大学看護学研究会の発足、そして日本看護研究学会の設立に多大なるご尽力を賜りました木場富喜先生は、2022年7月1日にご逝去されました(享年95歳)。

謹んで近田先生、木場先生、両先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

— 編集後記 —

ニュースレター2022年第7号を皆様にお届けいたします。

今年度は理事長はじめ理事が交代し新体制となりました。それに伴い、委員会も新体制となっています。どうぞよろしくお願いいたします。

2023年は卯年です。うさぎは跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして言われ、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われていたようです。

皆様にとって2023年がよい年となりますことを祈念いたします。

(広報委員会)